

平成29年度病害虫発生予察注意報第1号

平成29年7月13日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

7月上旬現在、カメムシ類の発生量がやや多く、果樹全般において果実被害の発生が懸念される。今後、7月中下旬頃から果樹園への飛来量が増加すると予想されるため、防除を徹底する必要がある。

病害虫名：果樹カメムシ類

- 1 対象作物 果樹全般
- 2 発生地域 県下全域
- 3 発生時期 平年並
- 4 発生量 多い

5 注意報発令の根拠

- (1) 昨年秋期のカメムシ類の誘殺数が多く、クサギカメムシの越冬量が前年より多かったことなどから、カメムシ類の越冬量はやや多いと見込まれる。
- (2) カメムシ類の予察灯及び集合フェロモントラップにおける調査では、7月上旬になって誘殺数が急増し、クサギカメムシを中心に発生量が多い。
- (3) 向こう1か月の気象予報(7月8日発表)では、平均気温は高いと予想されており、カメムシ類の活動に好適な条件になる見込みである。
- (4) カメムシ類の越冬世代成虫の発生量はやや多いと見込まれることから、第1世代成虫が発生する7月中下旬以降に、果樹園への飛来量が増加すると予想される。

6 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類の被害や飛来状況は、ほ場間差が大きいいため、園内外をこまめに見回り早期発見に努め、被害果実やカメムシ類の発生が多い場合は早急に防除を行う(ネオニコチノイド系又は合成ピレスロイド系殺虫剤のいずれかを選択)。特に、過去の多発年に早期被害を受けた地域では注意する。
- (2) 果樹園への飛来量が増加する時期は、例年、第1世代成虫が発生する7月下旬頃であるが、多発生年の場合、7月上旬頃から果樹園への飛来量が増加した事例があるので注意する。
- (3) 防除は、カメムシ類が飛来する夕方が早朝が効果的である。ただし、薬剤が乾きにくい気象条件の時は薬害が発生しやすいため夕方散布を実施しない。また、カメムシ類は移動性が高いため、広域的な防除に努める。
- (4) 合成ピレスロイド系殺虫剤の多用は、カイガラムシ類及びハダニ類の発生を助長した事例があるので、必要最小限の使用にとどめる。
- (5) 各樹種の防除薬剤は表3を参考とする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守る。

表1 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数（7月上旬）

調査地点	チャバネアオカメムシ		クサギカメムシ		ツヤアオカメムシ	
	平成29年	平年	平成29年	平年	平成29年	平年
八頭町	<u>367</u>	283.9	<u>252</u>	75.9	21	147.7
鳥取市河原町	82	92.5	<u>53</u>	15.1	23	87.4
湯梨浜町	<u>167</u>	90.9	<u>50</u>	10.1	46	80.9
北栄町	<u>246</u>	119.6	<u>37</u>	7.1	25	139.8

平年：平成19～28年の平均値
下線部は平年を上回る誘殺数を示す

表2 集合フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数（7月上旬）

調査地点	平成29年	平年
八頭町	92	267.1
北栄町	<u>96</u>	27.8

平年：平成19～28年の平均値
下線部は平年を上回る誘殺数を示す



チャバネアオカメムシ成虫



クサギカメムシ成虫



ツヤアオカメムシ成虫

写真1 主要な果樹カメムシ類



有袋栽培品種の被害



無袋栽培品種の被害

写真2 果樹カメムシ類による果実被害（収穫期）

表3 果樹カメムシ類の主な防除薬剤と使用基準*

作物	薬剤名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	薬剤の系統
ナシ	スプラサイド水和剤	1,500	有袋：収穫7日前まで 無袋：収穫21日前まで	3回以内 2回以内	有機リン系
	スミチオン乳剤	1,000	有袋：収穫14日前まで 無袋：収穫21日前まで	6回以内	
	ジノテフラン水溶剤 (アルバ [®] リン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド [®] 系
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	合成ピレスロイド [®] 系
	シペルメトリン水和剤 (アグロスリン水和剤)	1,000 ~ 2,000	収穫前日まで	3回以内	
	シペルメトリン水和剤 (イカズチWDG)	1,500	収穫前日まで		
	テルスターフロアブル	3,000 ~ 6,000	収穫前日まで	2回以内	
カキ	スプラサイド水和剤	1,500	収穫30日前まで	3回以内	有機リン系
	スミチオン水和剤40	800 ~ 1,000	収穫45日前まで	3回以内	
	ジノテフラン水溶剤 (アルバ [®] リン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド [®] 系
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫3日前まで	3回以内	合成ピレスロイド [®] 系
	アグロスリン水和剤	1,000 ~ 2,000	収穫前日まで	3回以内	
ブドウ	ジノテフラン水溶剤 (アルバ [®] リン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド [®] 系
リンゴ	スプラサイド水和剤	1,500	収穫30日前まで	2回以内	有機リン系
	スミチオン水和剤40	800 ~ 1,000	収穫30日前まで	3回以内	
	ジノテフラン水溶剤 (アルバ [®] リン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド [®] 系
	MR・ジョーカー水和剤	2,000	収穫14日前まで	2回以内	合成ピレスロイド [®] 系
モモ	スミチオン水和剤40	800 ~ 1,000	収穫3日前まで	6回以内	有機リン系
	ジノテフラン水溶剤 (アルバ [®] リン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド [®] 系
	アグロスリン水和剤	2,000	収穫前日まで	5回以内	合成ピレスロイド [®] 系

*農薬の登録内容は平成29年7月1日現在